

令和8年度

市長公約に関する取組み

令和8年7月31日現在

延岡市長 三浦 久知

この1年間、「みんなとみうらのタウンミーティング」や各種会議、地区行事への参加などを通じて現場に足を運び、また、多くの市民の皆様と汗をかきながら、市民の皆様の生の声を市政に反映させる土台づくりに奔走してまいりました。2年目となるこれからは、この土台の上に、具体的な成果という確かな芽を育てていく正念場と考えています。延岡の未来を切り拓くため、下記の公約をはじめとした市の施策についてスピード感を持って推進してまいります。

公約1：全ての子どもたちの可能性を伸ばします

次世代への投資こそが、延岡の未来をつくる重要課題です。家庭の環境に左右されることなく、全ての子どもたちが延岡の豊かな自然体験に気軽に参加できる仕組みを構築するとともに、個々の理解度に応じた学びも支援します。また、これらを強力に押し進めるため、市役所内に「こども未来部」を設置し、切れ目のない子育て支援体制の強化を加速させてまいります。

公約2：地域経済を活性化させます

本市が誇る優れた農林水産物や豊かな観光資源などを外貨獲得に結びつけるため、「地域商社」の設立に向けた準備を本格化させています。市内企業や生産者の皆様に寄り添う伴走型の支援を行い、販路拡大と稼ぐ力の強化、そして魅力ある雇用の創出によって、地域経済の力強い好循環を生み出します。

公約3：シニア世代が輝き安心して暮らせるまちにします

高齢化が進む本市においても、シニア世代が健康で、そして、これまでの経験を活かして輝き続けられる環境を整備します。同時に、医療・福祉体制の維持向上に努めるとともに、南海トラフ巨大地震をはじめとする自然災害に備え、防災・減災対策のインフラ整備や避難体制の強化を多角的に進めながら、誰もが安全に暮らし続けられる「安心のネットワーク」を構築します。

公約4：市役所をもっと前向きな組織にします

これらすべての施策を動かすエンジンは市役所組織そのものです。職員一人ひとりが市民目線に立ち、前例踏襲を打破して創意工夫を凝らせるよう、組織の風通しを良くし、部署の垣根を越えた前向きな市役所を目指してまいります。

本市には、自然、歴史、産業、そして何よりも情熱に溢れた「市民力」という素晴らしい強みがあります。この1年で紡いだ市民の皆様との絆と対話をさらに深化させ、次の1年も「オール延岡」で、山積する課題にスピード感を持って果敢に挑戦してまいります。

みうら 久知

公約１：全ての子どもたちの可能性を伸ばします。

家庭環境に関わらず、全ての子どもが延岡の自然体験に参加できる仕組みを整えます。

1. 「こども未来創造機構」による自然体験活動の充実

「一般社団法人 延岡こども未来創造機構」では、引き続き、子どもたちの「生きる力」を育む教育プログラムを実施しています。令和7年度には2件だった自然体験活動を、令和8年度には5件に増やし、子どもたちが延岡の豊かな自然と触れ合える機会を拡充しています。

■令和7年度実績: ホタル観察、延岡こどもパーク（2件）

■令和8年度予定: ①延岡こどもパーク／②昆虫観察ワークショップ／③乗馬体験／④スキムボード体験／⑤ルアー作り＋ルアーフィッシング体験（5件）



2. 「はらはらわくわくふるさと体験事業」の拡充

「はらはらわくわくふるさと体験事業」は、年間を通じて多様な体験活動を実施し、子どもたちの自主性・協調性・創造性を育むことを目的としています。

令和7年度に2回実施した当該事業の番外編（単発イベント）を、令和8年度は4回に増やします。

※番外編は、低学年向けと高学年向けに分けたカリキュラムで実施するため、より多くの子どもたちが参加できるようになります。

（高学年向けは9月に「国スポ・障スポってなあに？～バレーボールを体験しよう！～」、10月に「一人乗りカヌー体験」を実施予定。低学年向けは11月と12月に実施予定。）

3. 「ふるさと教育推進事業」の取組

延岡市の良さや素晴らしさを伝え、地域への愛着と誇りを育む「ふるさと教育推進事業」を進めています。令和7年度は、以下のような活動が行われました。

■A部門（創作活動）：6校でポスター、ちらし、ストラップ、うちわを制作。

■B部門（体験活動）：17校でカヌー、ボルダリング、地引網などを実施。このうち、ノベ☆スタ（NPO法人ひむか感動体験ワールド）に依頼した自然体験は20件。

■C部門（文化施設見学）：全校で野口遵記念館・延岡城内藤記念博物館を見学。この見学にあわせて、令和7年度から、辛麺屋柵元様の提供による鮎料理の食事と鮎やなの学習も実施。

令和8年度も同様の事業を行っており、現時点で小学校8校、中学校2校、義務教育学校1校から申請がされています。順次、創作活動、体験活動、文化施設見学を実施します。

子どもひとりひとりの理解度に合わせた学びを実現します。

1. AI型学習教材「Qubena（キュービナ）」の活用

小学3年生から中学3年生を対象に、AI型学習教材「Qubena」を導入しています。これは、一人ひとりの学習進度に合わせてAIが最適な問題を提供することで、効率的な学力向上をサポートするものです。今年度は夏休み期間中に教職員向けのアンケートを計画しており、AI教材の効果を最大限に引き出すための最適な方法を検討しています。

2. プログラミング学習教材「ライフイズテックレッスン」の活用

中学校技術科の専門教員が少ない中でも、子どもたちがプログラミングを学べるよう「ライフイズテックレッスン」を導入しています。この教材は、専門性の高いプログラミング教育の指導を補完し、子どもたちの情報活用能力を育むことができるようにするもので、引き続き、効果を最大限に引き続き出すための最適な方法を検討していきます。

3. 学力向上指導員の配置

子どもたちの学力向上を支援するため、教員免許を持つ学力向上指導員を配置しています。令和7年度の採用実績を踏まえ、令和8年度は15名の指導員を雇用しています。

この学力向上指導員だけでなく、特別支援教育支援員など多様な人材を配置することで、学校での学びの充実を図っています。

4. 新規事業「NOBEOKAスクール・イノベーション事業」の開始

「学力向上」「働き方・働きがい改革」「DX（デジタルトランスフォーメーション）」の3つのチームが連携し、延岡市の学校教育が抱える課題解決を目指すものです。

他自治体からの情報収集を進めつつ、年度末には、市民の皆様も参加できる教育フォーラムを開催し、事業の成果や今後の方向性を共有する予定です。

現在、以下の内容を研究しています。

■自己調整学習（自由進度学習）の導入

■協働的な学びの推進

■探求的な学びの深化

■学校の組織づくり



市役所に「こども未来部」を設置し、子育て支援を強化します。

1. 「こども未来部」設置に向けた整理

「こども未来部」がスムーズに発足できるよう関係部署が連携し、スケジュールを共有しながら、定期的に協議や情報収集を行っています。
現在、「こども未来部」が担当する施策について、全庁的な整理を進めているところであり、こども未来部設置準備室を中心に具体的な協議を実施しています。
また、あわせて「こども未来部」の体制についても、検討を進めています。

2. 夏季休業期間中の食支援

住民税非課税世帯の小中高生を対象に、給食がなく、食へのアクセスの機会が減る夏季休業期間中の食料品34食分を配布しています。

※実績：962名分の食料を配布



～市民の皆様のような声を市政に反映させるとともに、国や県などにも届けるため、様々な協議や要望活動を行っています～



市内小・中学校訪問



熊本地震の被災地へ
トイレカーを派遣



金子恭之国土交通大臣等への
要望活動



南海トラフ地震を想定した
自衛隊防災訓練

※写真は陸上自衛隊第8師団長 白川訓
通陸将（当時）



九州中央自動車道建設促進
大会（東京）



県市長会による
県への要望活動

公約２：地域経済を活性化させます

地域商社を設立し、延岡の優れた農林水産物の販売強化を行います。

「地域商社」のビジョンを策定中

令和９年度の地域商社設立を目標とし、設立に向けた取組みを強化するため、包括連携協定を結んでいる三菱電機株式会社 統合デザイン研究所のサポートなどを受け、市役所内の関係部署で地域商社の目指す姿（ビジョン）について話し合うワークショップを実施しました。このワークショップでの意見をもとに、市のビジョン案をまとめ、延岡商工会議所や延岡三北商工会、支援機関等へのヒアリングやワークショップを行いながら、地域商社の役割や機能等について議論を進めています。今後は、こうした議論とあわせて、市内の生産者や事業者などの関係者に対するヒアリングやこれらの関係者も交えたワークショップを開催し、さらに具体的な議論を深めていくこととしています。



愛宕山の魅力をさらに高めるカフェを誘致し、市民が集う拠点づくりと観光振興を図ります。

1. 副業型地域活性化起業人の登用

NTT東日本の小林建介氏と、令和８年４月１日付けで「副業型地域活性化起業人」として契約を締結しました。小林氏には、令和８年度に予定している実証実験（イベント）に向けて、愛宕山笠沙の御碕公園の立地条件などを整理し、戦略の検討を進めていただいています。また、「市民の憩いの場」や「観光誘客」につなげていくための実証実験イベントとして、市が直営で行うイベントを計画し、参加者の募集などを行ったところです。さらに、このイベントとは別に、市内の民間団体や事業者が行う実証実験イベントも募集しており、市としては選定会議で決定したイベントに対し補助金を交付することとしています。

2. 文化芸術企画アドバイザーとの連携

文化芸術分野の専門家である小松孝英氏を「文化芸術企画アドバイザー」としてお迎えし、各種協議を行いました。小松氏には、今後実施する実証実験について、専門的な視点からご検討いただいています。

3. 愛宕山笠沙の御碕公園の整備

実証実験の舞台となる愛宕山笠沙の御碕公園では、令和７年度に公園周辺の樹木の剪定・伐採を一部実施しました。令和８年度についても、土地所有者の方と協議を進めながら、引き続き整備を進めてまいります。



アスリートタウン延岡アリーナやのべおかwaiwaiスタジアムを核に、スポーツ合宿・大会の誘致を拡大します。

1. アスリートタウン延岡アリーナの供用開始

新しい宮崎県体育館「アスリートタウン延岡アリーナ」が、令和８年４月１８日にグランドオープンしました。このアリーナを拠点に、スポーツを通じた交流人口の拡大を目指し、５月２２日には「のべおかスポーツ応援協議会」が設立されました。また、県や県・市観光協会、県屋内系競技団体とともに、本市も「屋内系競技部会」の構成員として参加しています。この「のべおかスポーツ応援協議会」と「屋内系競技部会」が連携することにより、官民一体となった屋内競技チームの合宿や大会誘致に積極的に取り組んでいるところです。

2. 大会・合宿誘致事業を継続・強化

アスリートタウンを標榜する本市では、屋内・屋外問わず様々なスポーツの大会や合宿を誘致する事業を継続しています。選手や関係者の皆様が快適に過ごせるよう受け入れに必要な経費を予算に計上し、誘致活動を充実させています。令和８年１０月１８日には、国内最高峰の女子ハンドボールリーグ「リーグＨ」の県内初となる公式戦が、アスリートタウン延岡アリーナで開催されることが決定しました。

3. みやざきフェニックス・リーグ支援事業

プロ野球の若手選手が経験を積む「みやざきフェニックス・リーグ」についても、延岡市での開催が決定した際には、のべおかwaiwaiスタジアムでの開催に向け、周知、盛り上げ策を講じるなどの取組みを進めていきます。



公約3：シニア世代が輝き、安心して暮らせるまちにします

診療所やクリニックの事業承継を支援し、地域の身近な医療を守ります。

1. 医療機関への補助金制度を拡充

新たに「事業承継」の支援を追加した「延岡市医療機関新規開業促進事業・医療機関事業承継支援補助金交付要綱」を制定しました。この新しい補助金制度は、令和8年度から運用を開始しており、延岡市で新たに医療機関を開業される方や、既存の医療機関を引き継がれる方を支援するものです。

2. 大学医学部との連携強化

地域医療を支える医師の確保や育成の一環として、大学医学部との連携を強化するため、今年度は、宮崎大学に加え、新たに熊本大学と大分大学も訪問しました。これらの大学には、医師派遣へのお礼、そして今後の継続的な連携のお願いを行っています。今後も継続し、大学との関係を深めながら、地域医療の充実につなげていきます。

津波対策と福祉避難体制を強化し、避難所環境の質を高めることで、市民の生活を守ります。

1. 九州市長会による相互支援体制の構築

大規模災害が発生した場合に備え、九州市長会で協議されている相互支援体制において、延岡市を支援いただく3市が決定しました。

- 先遣市：熊本県合志市
- 支援市：福岡県北九州市、飯塚市



各支援都市を4月に訪問し、被害想定を説明して支援を要請するとともに、WEB会議を5月に開催し、詳細な情報共有や支援内容の提示を行いました。今後、支援内容について相互に確認作業を進めて行く予定で、支援都市からの意見を踏まえ、さらに具体的な支援計画を策定し、延岡市への来訪も調整していきます。

2. 避難所運営マニュアルの改訂と訓練の実施

災害発生時に市民の皆様が安全に避難できるよう避難所の運営体制を強化しています。市職員や施設管理者、地域住民・避難者が協力し、避難所を円滑に運営できるようにするため、「延岡市指定避難所運営マニュアル」を改訂し、指定避難所のうち8ヶ所について「避難所運営手順書」を作成しました。令和8年度は、マニュアルや手順書に基づき、県の総合防災訓練に合わせて避難所運営訓練を実施する予定ですが、加えて、避難所の環境改善として、プラスチック製のダンボールベッドやインフレーションマットの購入を進めているところです。今後は、訓練で得られた課題や改善点を反映させながら、マニュアルや手順書の見直し、内容の充実を図りつつ、資機材や備蓄品の不足分についても、順次確保・配備を進めていきます。

豊富な経験を持つシニア世代が地域で力を発揮できる仕組みを整えます。

1. ボランティア活動の受け入れ体制を強化

5月末から6月上旬にかけて、ボランティア受け入れを希望する保育園や小学校と具体的な活動内容について協議を進めました。協議では、以下のような意見・要望がありました。

- 活動の見える化：ボランティアが活動していることが分かるように、帽子やビブスの着用を希望。
- 事前説明の徹底：学校側の負担を減らすため、ボランティアへの事前説明を徹底してほしい。
- 活動内容：小学校・・・落ち葉掃除などの環境美化作業（特に運動会前の草むしりや清掃）を希望。
保育園・・・園庭の環境美化、おもちゃの消毒作業を希望。

以上の意見を踏まえ、ボランティアへ名札を配布するとともに、ボランティア手帳（注意事項等の説明記載あり）と受入れ手順書を作成しつつ、ボランティア保険への加入を勧めています。また、現在活動を行っている登録済みのボランティアの方々へ受入れ先の拡大を通知するとともに、ボランティア受入れ施設に対し、希望する活動等の調査を行っているところです。今後は、SNSや広報を通じて、取組みを広くPRしていきます。

2. シニア世代の就労支援を強化

市や県、延岡地域雇用促進協議会が主催する就職説明会に、シニア世代を対象とした相談ブースを新たに設置し、多様な働き方の相談に対応することとしています。また、延岡地域雇用促進協議会では、令和7年度からシニア求職者も対象とした就職支援セミナーを開講しており、就職に必要な知識やスキル習得の機会を提供しています。今後は、就職説明会やセミナーなど、既存の支援策を最大限に活用し、シニア世代を含む多様な人材の就労をサポートするとともに、国や県と連携し、シニア世代の活躍を応援するプロジェクトにも積極的に協力し、支援策の周知や情報共有に努めることとします。

公約４：市役所をもっと前向きな組織にします

若手職員によるプロジェクトチームを発足させます。

民間企業人と市職員のタッグによる課題解決の新たなアイデア創出

民間企業人と市職員により、市の課題解決の新たなアイデアを創出する研修「GIFT」に取り組みます。今年度は、課題テーマを「①商店街の活性化」「②フードロス対策」「③愛宕山の活性化」の３つとし、9月からの研修開催に向けて（株）ウィル・シードなどと調整を進めています。

民間人材と市職員がチームを組み、新たな政策創出を実現します。

１．「延岡YEG×延岡市役所ワールドカフェ」の継続的な実施

令和８年７月９日(木)に、延岡商工会議所青年部（延岡YEG）と市役所若手職員による意見交換を行いました。今年度は、「10年後の延岡と官民連携」をテーマに、延岡YEGと市役所若手職員の間でこれからの延岡の姿や、官民が連携して取り組めること、それぞれの立場からできること等について、ワールドカフェ形式で多角的に意見を交わしました。意見交換を通じて、顔の見える関係づくりを進めるとともに、本市若手職員の見識を深める機会となり、また、今後の協働・連携につながるきっかけとなりました。

２．民間企業人×市職員による延岡にぎわい創出プロジェクトの実施

延岡YEG、株式会社ケーブルメディアワイワイ、株式会社まちづくり延岡、市役所若手職員による「延岡にぎわい創出プロジェクト実行委員会」を立ち上げ、延岡駅前、延岡市役所前にイルミネーションを展開することで、人の流れを生み出し、まちなかのにぎわい創出につなげるプロジェクトに取り組んでいます。



北方・北浦・北川・島浦の支所に地域活性化専門の職員を配置し、個性ある地域づくりを推進します。

１．地域おこし協力隊の確保

令和８年４月から北方総合支所に新たに１名の隊員が着任しました。現在、北方総合支所及び島浦支所に隊員を配置し、地域の活性化に向けて取り組んでいるところです。また、島野浦島の更なる活性化を図るため、新たに１名の隊員を採用する予定です。この募集にあたっては、地域おこし協力隊の採用等に知見のある民間事業者に委託し、より効果的・効率的に取り組むことで、人材の確保や育成につなげていきます。

２．職員の地域振興に対する専門性の向上

地域の実情に精通した職員を北方総合支所・北浦総合支所・北川総合支所に配置し、地域課題の掘り起こしや地域の活性化に取り組んでおりますが、各総合支所の地域振興の専門性を高めるため、地域振興に従事する職員（地域おこし協力隊も含まれます。）に対し、地域振興の経験が豊富な民間事業者や行政職員等による研修を行います。また、国や県の外部人材派遣制度も活用し、専門的なノウハウを取り入れるほか、地域で活動する方々との連携を図り、地域資源を活かした個性ある地域づくりを推進してまいります。

市民が身近な場所で気軽に悩みを相談できる体制を整えます。

出張なんでも総合相談センターの実施

令和7年度は以下の3会場で開催し、計5件のご相談に対応しました。

- 1月22日：北方（北方コミュニティセンター）
- 2月26日：北浦（北浦公民館）
- 3月13日：北川（北川老人福祉館）

令和8年度は、初回の島浦をはじめ、毎月1回、来年3月までに以下のとおり開催します。
また、より多くの皆様にご利用いただけるよう、他の部署が主催する相談会と協力して開催する回も設けます（全10回のうち2回）。

- 6月18日：島浦（離島センター）※空家施策推進室と共催 相談件数 10件
- 7月16日：土々呂・伊形（土々呂・一ヶ岡コミュニティセンター）※空家施策推進室と共催 相談件数 7件
- 8月：東海（東海コミュニティセンター）
- 9月：恒富（認知症月間イベントに併せて実施／社会福祉センター）
- 10月：川中（一日合同行政相談所に併せて実施／社教センター）
- 11月：恒富（南老人センター）
- 12月：南方（南方東コミュニティセンター・舞野多目的）
- 1月：北方（北方コミュニティセンター）
- 2月：北浦（北浦公民館）
- 3月：北川（北川老人福祉館）



職員の多様な働き方を推進します。

1. 職員の柔軟な働き方の実現

フレックスタイム制導入を見据え、「早出・遅出勤務」の試行導入を検討しており、今年度中に制度を構築する予定です。
なお、検討に当たっては、平成29年度から令和元年度までの期間で試行した「ゆう活」や「時差勤務」を参考にしていきます。

2. 佐伯市との人事交流復活

令和8年4月1日から、佐伯市と延岡市でそれぞれ職員1名を相互に派遣し、連携を深めています。延岡市からは観光戦略課の職員が佐伯市へ、佐伯市からは観光戦略課に職員が派遣されています。

3. 庁内副業の制度設計

RPA内製化研修として、RPAを職員自身で開発できるよう4名の職員が講師のアドバイスを受けながら、更新が必要となったRPAシナリオの作成に取り組むこととしています。この研修は、「人材バンク型」庁内副業の試験的導入に向けた取組みと位置づけています。また、令和8年6月に「庁内セカンドワーク」を実施している宮崎市への視察を実施しました。今後、佐世保市や八女市への視察も行い、庁内副業の具体的な運用について検討を進めます。

※RPA：定型的な事務作業を専用のソフトウェア等を使用して代行・自動化させる技術や仕組み

4. 庁外副業の基準の明確化

県内他市の状況を参考にしながら、より良い勤務条件の基準を今年度中に作成する予定です。

5. 採用試験申込者数の増加策

- 令和8年度採用試験案内において、市職員（建築技術職、一般事務職及び消防職）のPR動画を作成し、市ホームページやSNSで公開しています。
- 採用試験案内には、本市の「資格取得支援制度」の内容を明記しています。
- 市長定例記者会見で採用試験について説明し、市の魅力を発信しています。
- より効果的な採用情報を提供するため、今年度から採用試験申込時に、受験者がどこで情報を得たかのアンケートを実施しています。

その他、公約関連の取り組み

①全ての公民館で市長と市民との対話を実施（４年間で）／ ②若者や現役世代を対象にした対話の場をつくる／ ③全ての小中学校、保育園・幼稚園への視察

令和7年度より、「みんなとみうらのタウンミーティング」や、小学生向け「三浦市長と延岡の未来を語ろう会」を実施しており、今後とも継続して実施していきます。

①みんなとみうらのタウンミーティング

（令和7年度）

■12月16日（火）19：00～20：00 北方コミュニティセンター 32名参加

■12月25日（木）19：00～20：00 ホタルの館 9名参加

■1月23日（金）19：00～20：00 北浦公民館 10名参加

■1月31日（土）10：00～11：00 市役所講堂 20名参加

（令和8年度）

■7月25日（土）13：00～14：30 北方コミュニティセンター 16名参加

■8月22日（土）10：00～11：30 島野浦島開発総合センター

■8月23日（日）10：00～11：30 北浦公民館

■10月17日（土）10：00～11：30 東海コミュニティセンター

■10月17日（土）14：00～15：30 ホタルの館

■10月24日（土）10：00～11：30 恒富南コミュニティセンター

■10月24日（土）14：00～15：30 市役所講堂

②三浦市長と延岡の未来を語ろう会※小学生対象

（令和7年度）

■8月30日（土）14：00～15：00 市役所本庁舎 8名参加

（令和8年度）

■8月23日（日）14：00～15：00 市役所本庁舎

③市長による小・中学校訪問

令和8年度から市内の小中学校をすべて訪問し、校長との意見交換や学校の視察を行うこととしています。

なお、令和8年度に訪問する予定の小中学校は以下のとおりです。（22校訪問予定／37校中）

■【小学校】延岡、岡富、方財、東、浦城、北浦、南、名水、伊形、土々呂、南方

■【中学校】南浦中(学びの多様化学校含む。)、延岡、岡富、北浦、南、土々呂、西階

■【小中一貫校】上南方小中、三川内小中、北方学園

■【義務教育学校】島野浦学園



佐伯市との連携強化

佐伯市と観光分野での連携を一層強化するため、意見交換会を実施しました。今後も様々な取組みを進めていくことを相互に確認しています。なお、主な連携内容は以下のとおりです。

1. 食を通じた交流

佐伯市で開催される料理教室で、延岡市の「食の新分野開拓マネージャー」がチキン南蛮教室を実施しました（令和8年6月30日実施）。

次回は、延岡市のエンクロスにおいて、佐伯市の食の魅力を発信するためのワークショップを開催します。（9月～10月を予定）両市の特産品を使った新しい商品の開発も検討しています。

2. 佐伯港クルーズ客ツアー

カーフェリーやクルーズ船を活用した旅行商品の企画や、両市の特産品のPRについて話し合いを進めています。

3. 広域観光の連携強化とインバウンド推進

「SNS動画を使った地域プロモーション事業」を共同で申請しました。今回は採択までは至らなかったものの、今後も引き続き連携強化を目指します。

これらのほか、両市で開催されるイベントにおいて、市民が相互に交流できる機会を設けていきます。